

ラマーミトゥルの会第6回スリランカツァー報告 (20180304~0311)

小学校との交流と観光を目的とした第6回スリランカツァーは、3月4日から1週間の日程です。今回は、社会人や休学中も含め7人の学生など15人のグループになりました。ツァー期間中、古都キャンディの小学校が戒厳令による臨時休校などのアクシデントもありましたが、3つの小学校とシーギリヤなどの世界遺産を訪問してきました。寒かった日本の冬から、いっきに真夏のスリランカへのツァーでしたが、はじめての訪問者だけでなく複数回参加の人も、スリランカの小学生との交流や日本とは異なる自然や文化遺産を学び楽しむことができました。

3月5日 ポロンナルワ地方の小学校 (Polonnaruwa, PL/Galthambarawa P.V.)

1年生から5年生までの約60人の小学生から花のプレゼントの歓迎に感激しながら、いつものように日本の文化や自然の紹介から始めました。最初はおとなしかった子供たちも、校庭での大縄跳びではとまどいながらも元気にやり方を覚えていきます。若い参加者は子供たちに追いかけるなど、すぐになじんでいました。そして教室に戻り折り紙づくり、日本の兜を折りました。スリランカには折り紙の文化はないので、ツァーに参加できなかった会員に協力してもらい、わかりやすい解説本をプレゼントしてきたので、覚えてくれるといいですね。最後にまた全員集まって参加者のオカリナ演奏や、合唱を聞いてもらいました。合唱は即席の練習でとてもうまくできたとは言えませんが、子どもたちや先生、保護者の皆さんに日本の文を化できたのではと思います。校長先生からは、猿からの被害を受けている校舎の屋根の補強の要望がありました。(具体的な支援は7月の送金と、現地のNPOの支援を合わせて行われます。)



3月6日 シーギリヤ地方の小学校 (Sigiriya,CP/GA/Polathawa P.S.)

小学校まではバスが入れずジープに分乗していきました。(帰りは約1キロを走った人も) 約50人の生徒に校庭で日本の紹介と大縄跳びで交流しました。子供たちは大縄跳びをするのは初めてですが、とても速く覚えます。それぞれの小学校には折り紙や大縄跳び用の縄もプレゼントをしてきているので、スリランカで流行るようになるといいのですが。前の学校と同じように、新聞紙を使った兜の折り紙やオカリナ、合唱などをしてきました。校長先生からは校庭の遊具の補修の要望がありました。花壇や校庭などもきれいな学校でした。



3月9日 キャンディ地方の小学校 (Geliya New Elpitiya Vidyalaya)

キャンディ地方の学校が臨時休校になったため、先生方と保護者の方にお話を聞き、持参したプレゼントを渡してきました。やはりバスでは入れず、トゥリーヴィラ (3人乗り3輪車) に分乗して学校を訪問しました。数年前は8人まで減った生徒も今では30人まで増えたそうです。学校敷地をかこむフェンスなどを整備したいとのことでした。子供たちには会えませんでした (私服で学校に来てくれた子も何人かいました)、訪問して学校の雰囲気に触れたことは良かったと感じました。校長先生や先生、保護者の皆さんの熱意を強く感じることができました。



3月5～10日 世界遺産観光、他

- ・シーギリヤ 約1200段の階段に苦闘しながらも頂上の景色は素晴らしい。
 - ・ポロンナルワ 約900年前の王朝遺跡、仏像を見学。
 - ・仏歯寺 スリランカの王朝を象徴してきたお釈迦様の歯を守るお寺。
 - ・キャンディダンス学校 伝統的なキャンディダンスを見学、そして体験。ダンスがうまかったので残るよう誘われた人も。
 - ・ゴールフォート ポルトガルやオランダの植民地時代の要塞で、広い敷地は今では公園に。砦からのインド洋はとてもきれいでした。
 - ・紅茶工場 紅茶畑の中を走る列車の旅の後、ヌワラエリヤの紅茶工場を見学、2000メートル近い高地で、南国とは思えない涼しいところでした。
- その他、スパイスガーデンやバティック、宝石店などで見学や買い物を楽しみました。

今回のツアーは、キャンディ地方の戒厳令の影響による学校の臨時休校など、予期せぬこともあり心配された方もいたと思いますが、現地は落ち着いていて危険を感じることはありませんでした。スリランカの内戦終結から約10年たち、街は活気づいているように感じられました。学校訪問では、まだ物の豊かさを感じることは出来ませんが、子どもたちの明るい笑顔や元気な姿に接すると、逆に私たちが元気づけられるように感じます。ラマーミトゥルの会の支援はささやかですが、少しでも子供たちに役立てることができればと感じさせられました。

